

令和八年度

入学試験問題

(後期)(三月四日)

愛知学泉短期大学

国語

時間 六〇分

注意事項

- 1 受験票を机右上に提示すること。
- 2 試験終了までは退場はできない。
- 3 この時間は一〇時から一一時までである。
- 4 試験開始・試験終了は、試験監督者の「始め」・「やめ」の合図による。
- 5 問題用紙・解答用紙が配付されても、「始め」の合図があるまでは見てはならない。
- 6 この問題用紙は、一〜五ページまでである。
- 7 解答は、すべて、**解答用紙**に鉛筆で正確に記入すること。
- 8 「始め」の合図とともに、まず、**解答用紙に受験番号・氏名を記入すること**。
- 9 質問があるときは、黙って手を挙げること。
- 10 トイレその他気分の悪くなった場合は、申し出ること。
- 11 試験終了の「やめ」の合図があったら、ただちに筆記をやめ、**解答用紙の回収が終わるまで**席を立たないこと。
- 12 問題用紙は、各自持ち帰ること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちは普段、自分が自分をどのように認識しているかについて改めて考えることはないでしょう。自分というのは生まれてきてからずっと存在し、自分はそれを物心ついたときからきちんと認識していると感じるのが普通だと思います。

しかし、社会心理学の「自己認識」という研究領域の^(A)知見からは、自分という一つの^(B)ジッタのようなものがあるという認識をつくるには、かなり高度な心の働きが必要だということがわかっています。高度な心の働きを使つてさまざまに認知した要素を組み合わせて自分自身で織り上げるのが「自分」という存在であるといえます。

たとえば、自分は優しい人間だと自分で思っているとしみましょう。しかしその「優しさ」というのは^(B)抽象的な概念です。自分に関してそのような抽象的なことを、何の^(C)キバンもなくいきなり認識することは難しいことです。

私たちが生まれてから現在までのあいだ、自分について知っていることは、自分の行動や自分について人から言われたことなど、さまざまな自分の体験についての記憶です。このような体験した事実についての記憶を、心理学では「エピソード記憶」と言います。エピソード記憶をどれだけ大量に集めても、「優しい」という抽象的な理解に達することは困難です。

自分というものを織り上げるには、自分についての大量のエピソード記憶を^(三)シユシャセンタクし、共通項を自分なりに抽出して、それに概念を当てはめる(ラベルをつける)という精神的な作用が必要です。たとえば、自分の大量の過去の記憶のなかで、かつて友達にノートを貸してあげたとか、電車のなかで人に席を^(四)譲つてあげたとか、お母さんに「あなた優しいわね」と言われたなどの個々の出来事の記憶から、自分には共通して人に優しくする傾向があるという共通項を抽出します。共通項を抽出する際には、自分には性格というものがあるはずだと考え、自分が知っている性格についての概念のなかから自分に当てはまりそうなものをピックアップして当てはめます。これではじめて、自分は優しいのだと認識することができます。

実は性格が存在するというのも一つの考え方であり、^(C)の事実ではありません。

通常私たちは、人には性格というものが存在し、いろいろな場面や時において性格に基づいて一貫して行動すると考えています。たとえば、怒りやすい人はちよつとしたことでよく怒り、優しい人は昨日も今日も明日も、誰に対しても優しく接してくれると考えています。性格が変わらないかぎり行動は変わらないとも思っています。

しかし、人間の行動には状況の影響が大きく、同じ人でも置かれた状況や時によって行動が変わることが大いにあります。たとえば自分の行動を振り返ってみれば、家族の前、友人の前、学校の先生の前、上司の前ではそれぞれの場合でとる行動が異なるでしょう。同じ言葉をかけられたとしても、相手が誰か、状況がどうかによって自然に違った行動をとります。そして、それが状況に影響されたものであることが、自分の行動であればよくわかります。誰の前で、どのような状況で行動するかによって、よくする行動のレパートリーを使い分けることもあるかもしれません。

ところが、私たちは他者の行動の原因を説明し、予測しようとする場合には、^(D)そのようなことを忘れてしまいます。他者のなかに^(E)何らかの安定的な原因があると想定し、他者の行動を説

明し予測しようとはします。そこで、性格という概念を作り出し、性格が行動の原因となって状況や時や場合を超えて一貫した行動傾向があると考えられるのです。

このように、性格という概念は他者の行動を説明したり予測したりするために使われる概念ですが、自分の行動を説明し、自分を理解するためにも使われます。

自分のなかで自分に対する理解ができあがると、それを記憶のなかに^(五)蓄えておき、必要に応じて取り出して使います。たとえば、新しく自分がおこなった行動や考えについて意味づけをしたり、これから自分がすることについて判断したりします。その積み重ねによって、私たちは自己を認知するとともに、認知の内容を日々更新しているのです。そして、自分自身についての自分なりの理解の枠組みを作り、維持していきます。

(藤田政博「バイアスとは何か」より)

(注) 問題作成の都合上、作問者が本文を一部省略している。

問一 傍線部(一)～(五)のカタカナは漢字で書き、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問二 傍線部(A)「知見」の意味を答えなさい。

問三 傍線部(B)「抽象的」の反対語を漢字三字で答えなさい。

問四 空欄 C には「証明するまでもなく明らかであること」を表す熟語が入る。この熟語を答えなさい。なお、この熟語は「」の理」という表現で使われることが多い。

問五 傍線部(D)「そのようなこと」とはどのようなことか。本文の言葉を用いて二十字以内で答えなさい。

問六 傍線部(E)「何らかの安定的な原因」とは何か。本文より漢字二字で抜き出し、答えなさい。

問七 「自分」の認識は、どのように作られるのかを説明している一文を本文より抜き出し、はじめの五字を答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

本は、いふなれば「情報収集と思考の練習ツール」です。本を適切に^(二)読めば読むほど、知識も含めた情報収集のセンスやスキルが磨かれ、よりよく自分なりに考えられるようになっていく、ということなのです。ただページを^(三)繰って「何が書かれているのか」を理解することだけが読書ではありません。

といっても、手に取った本をすべて熟読し、完全に理解するのは大変です。大変というより、ほぼ不可能でしょうし、そんな必要もないのです。

そもそも「適切に読む」熟読」ではありません。読む本によって、あるいは、その本を読む目的によって、「いかに読むか」「どれくらいの理解度を目指すか」は違って当然です。

A 今後、みなさんは、今までよりもずっと大量かつ多様で、^(三)骨太な本に触れていくことになります。ざっと読んでおけばいいだけの本もあれば、何度でも繰り返し読んだほうがいい本もあるでしょう。ざっと読んでおけばいいだけの本を読む時間を節約するためにも、何度でも繰り返し読んだほうがいい本を読む時間を確保するためにも、自転車のギアを切り替えるように、「読書モード」を使い分けていきましょう。

きちんと読まなくていい本を、きちんと読むのは時間と労力の無駄です。大量かつ多様で骨太な本を読むといつても、^(四)肩ひじ張らず、「きちんと読まない」という選択肢をもっておくことも、学びという営みを止めないためには大切なのです。

読書を^(五)生真面目に考えすぎると、本を開くこと^(六)ジタイが苦痛になり、次第に本から遠ざかってしまいかねません。それこそ、もっとも避けたい事態です。いい加減に読むことを^(七)キヨヨウする、「自分に優しい読書」を心がけましょう。また、^(八)無数に本があるなかで教養を深めていくには、「読まない本」を選別することも必要になってきます。

「^(九)きちんと読むべき本」や「ざっと読んでおけばいい本」の下には、当然「読まなくていい本」があります。本ごとに「読書のギアシフト」を切り替えることを習慣づけ、「自分にとっての重要度のグレード付け」のセンスが養われれば、自然と「読まない本」の選別眼も磨かれるはずです。

(斉藤淳「アメリカの大学生が学んでいる本物の教養」より)

(注) 問題作成の都合上、作問者が本文を一部省略している。

問一 傍線部(一)「読めば読むほど」はどの言葉にかかるか、次のア～エからすべて選び、記号で答えなさい。

ア 含めた イ 磨かれ ウ 考えられる エ なっていく

問二 傍線部(二)「繰って」、(三)「骨太」、(五)「生真面目」の読み方をひらがなで答えなさい。

問三 傍線部(六)「ジタイ」、(七)「キヨヨウ」を漢字に直しなさい。

問四 傍線部(四)「肩ひじ張らず」の意味は何か、簡潔に言い換えなさい。

問五 空欄 **A** に入る適切な言葉を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア けれども イ ましてや ウ また エ おそらく

問六 左の文章が、傍線部(八)と同じ意味なら「○」、異なるなら「×」、どちらとも言えないなら「△」と答えなさい。

無数にある本のなかから「読まない本」を選別することも、教養を深めていくために必要になってきます。

問七 傍線部(九)「きちんと読む」とは、どのような読み方か？二五以上三〇字以内で説明しなさい。

問八 文章記述のフレームワークの一つである「PREP法」に関する【例題】を参考にして、【本題】に答えなさい。

【例題】 問い

私のアルバイト先に、仕事ができる先輩がいます。ミスなくテキパキ動き、忙しくても笑顔で接してくれます。どうしたら先輩みたいになれるのかと聞いたら、「健康第一」という返事でした。さて、あなたには目標とする人がいますか？

【例題】 解答例

結論P (point)

私はコンビニでアルバイトをしています。私にも憧れの先輩がアルバイト先にいます。年齢は一つ下ですが、私より2か月早く働き始めています。

理由R (reason)

その人も、とんでもないほど仕事ができます。私などレジの仕事だけで緊張してしまうのに、その人はオールマイティなのです。

具体例E (example)

コンビニは商品を売るだけでなく、宅配とか公共料金の振り込みの対応とか様々な業務があります。先輩は何でもこなす上に、チェーン店内の総菜パンレシピコンテストで第1位になりました。近々商品化されるそうです。

結論(言い換え) P (point)

先輩は「専門性を身に付けて役割を果たすのは当たり前として、私の仕事が生世の中に貢献できているらしい」と言っています。

【本題】

本文では、教養を高めるために読書が有効で、大量かつ多様な本を「きちんと読むべき本」や「ざっと読んでおけばいい本」「読まなくていい本」に選別する眼が必要と述べている。さて、教養高めるための、読書以外の方法にはどのようなものがあるか、「PREP法」を用いて答えなさい。

【三】「アブダクション推論」に関する説明及び【例題】を読み、以下の【本題】に答えなさい。

※アブダクション推論（逆行推論・仮説推論）

観察された事実から最も合理的な仮説を導き出す論理的思考法。不完全な情報から最も可能性の高い説明を見つけ出すことを目的としている。答えが一つに定まらない課題を解決する際、検証する前に仮説を立てること。（生成AIの説明による）

【例題】

事実

畑の跡地に井戸を掘っていた。地下50cmのところから、貝殻が複数出てきた。調べてみると、それらは海の貝であった。

仮説

この場所は太古、海だったかも知れない。

検証方法

- ① 近辺の同年代の地層を、複数箇所掘ってみる。
- ② 貝の出た地層の他のサンプルを調べる。
- ③ 貝そのものの、年代測定をする。

↓ 結果として、仮説が的外れでも構わない。もしかしたら、祖父が畑の土壌改良をするために貝殻を埋めたのかも知れない。ただし、思考の活性化のために、仮説を立てることが第一歩となる。

【本題】

問一 日本の高校生の不読率（一か月に一冊も本を読まない人の比率）は約五割である。さて、なぜそうなったのか、可能性の高いと思われる仮説を三つ立てなさい。検証方法は解答不要。

問二 あなた自身は過去一年を振り返って、平均して一か月に一冊以上本を読んだか、それとも読んでいないかを明確にきなさい（課題解決の姿勢及び表現力を測る問題であり、採点及び合否判定とは無関係）。さらに、当事者意識をもって考え、今後どのような方策によって読解力を高めるのか、自らの課題を解決する方策を二三五字以上一五〇字以内で記述しなさい。

